

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-224061

(P2015-224061A)

(43) 公開日 平成27年12月14日(2015.12.14)

(51) Int.Cl.
B65D 85/68 (2006.01)F1
B65D 85/68テーマコード (参考)
3E037

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2014-110133 (P2014-110133)
(22) 出願日 平成26年5月28日 (2014.5.28)(71) 出願人 000006013
三菱電機株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
(74) 代理人 100082175
弁理士 高田 守
(74) 代理人 100106150
弁理士 高橋 英樹
(74) 代理人 100115543
弁理士 小泉 康男
(72) 発明者 清水 芳郎
東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 三
菱電機株式会社内
(72) 発明者 貞廣 洋介
東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 三
菱電機株式会社内
Fターム(参考) 3E037 AA20 BA02 BA07 CA03

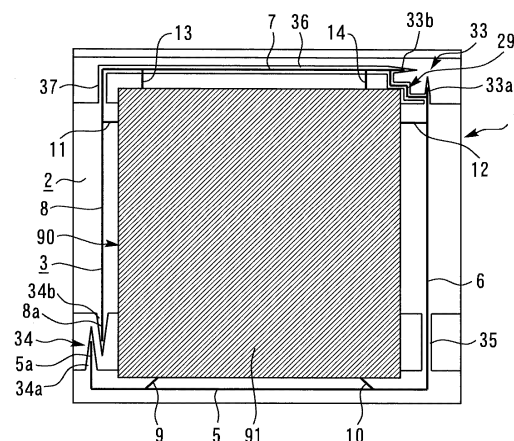
(54) 【発明の名称】 梱包構造

(57) 【要約】

【課題】 部品点数が少なく、梱包及び開梱を容易に繰り返すことができる梱包構造を提供する。

【解決手段】 梱包構造1は、被梱包体（貯湯ユニット90）を載せる台2と、被梱包体の周囲を囲む側面部（第一側面部5、第二側面部6、第三側面部7、及び第四側面部8）と、側面部の途中に複数の折り曲げ部により形成される柱構造29とを有する外装部材3と、を備え、台2は、柱構造29を固定する柱固定部33と、側面部の両端（第一側面部5の端部5a及び第四側面部8の端部8a）を固定する両端固定部34とを有する。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

被梱包体を載せる台と、

前記被梱包体の周囲を囲む側面部と、前記側面部の途中に複数の折り曲げ部により形成される柱構造とを有する外装部材と、

を備え、

前記台は、前記柱構造を固定する柱固定部と、前記側面部の両端を固定する両端固定部とを有する梱包構造。

【請求項 2】

前記柱固定部と前記両端固定部とが対角の位置にある請求項 1 に記載の梱包構造。

10

【請求項 3】

前記柱固定部は、前記柱構造が嵌合する溝を有する請求項 1 または請求項 2 に記載の梱包構造。

【請求項 4】

前記両端固定部は、前記側面部の両端が嵌合する溝を有する請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載の梱包構造。

【請求項 5】

前記被梱包体の上面を覆う上面部が前記外装部材に一体に設けられる請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載の梱包構造。

【請求項 6】

20

前記側面部に切込みを有し、前記切込みを内側に折った部分が前記被梱包体に接触する請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載の梱包構造。

【請求項 7】

前記側面部に切込みを有し、前記切込みを内側に折った部分が前記台と前記被梱包体との間に挿入する請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載の梱包構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、梱包構造に関する。

【背景技術】

30

【0002】

例えば給湯機などの製品の運搬、保管、荷扱いの際に、製品に損傷が生じないように、製品を梱包する梱包構造が広く用いられている。下記特許文献 1 には、ガス給湯器の梱包構造において、長手方向が縦方向となる姿勢で梱包される被梱包体の上面を覆うように、平面形状が被梱包体の平面形状よりも大きい上面用緩衝材が配設され、かつ、被梱包体の下面を覆うように、平面形状が被梱包体の平面形状よりも大きい下面用緩衝材が配設されているとともに、少なくとも被梱包体の互いに対向する 1 対の側面に、該側面を覆うように側面用緩衝材が配設されているものが提案されている。

【先行技術文献】**【特許文献】**

40

【0003】

【特許文献 1】特開 2002-337924 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上述した従来の梱包構造の場合、製品（被梱包体）の運搬、荷扱い後に、製品の表面に変形・損傷が無いかどうかを確認するために一時的に開梱する作業が容易にできないという課題がある。また、部品点数が多いため、梱包、開梱、梱包部品の廃却作業が容易にできない難点がある。

【0005】

50

本発明は、上述のような課題を解決するためになされたもので、部品点数が少なく、梱包及び開梱を容易に繰り返すことができる梱包構造を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る梱包構造は、被梱包体を載せる台と、被梱包体の周囲を囲む側面部と、側面部の途中に複数の折り曲げ部により形成される柱構造とを有する外装部材と、を備え、台は、柱構造を固定する柱固定部と、側面部の両端を固定する両端固定部とを有するものである。

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、部品点数が少なく、梱包及び開梱を容易に繰り返すことができる梱包構造を提供することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】本発明の実施の形態1の梱包構造（梱包完了状態）を正面側から見た斜視図である。

【図2】本発明の実施の形態1の梱包構造（上面部を開いた状態）を正面側から見た斜視図である。

【図3】本発明の実施の形態1の梱包構造が備える外装部材の展開図である。

【図4】本発明の実施の形態1の梱包構造が備える台の平面図である。

【図5】本発明の実施の形態1の梱包構造（梱包完了状態）を水平面で切断した断面図である。

【図6】本発明の実施の形態1の梱包構造（梱包完了状態）の上部を鉛直平面で切断した断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。なお、各図において共通する要素には、同一の符号を付して、重複する説明を省略する。

【0010】

実施の形態1.

図1及び図2は、それぞれ、本発明の実施の形態1の梱包構造を正面側から見た斜視図である。図1は、本実施の形態1の梱包構造1による梱包が完了した状態を示す。図2は、本実施の形態1の梱包構造1の外装部材3の上面部4を開いた状態を示す。

【0011】

図2に示すように、本実施の形態1の梱包構造1は、貯湯式給湯機の貯湯ユニット90を梱包する。すなわち、本実施の形態1では、貯湯ユニット90が被梱包体に相当する。貯湯ユニット90は、略直方体形状の本体91と、本体91を支える複数の脚92とを有する。図示を省略するが、本体91は、板金材などで構成されるケースの内部に、貯湯タンク、配管、弁、ポンプ、熱交換器、制御基板などを内蔵する。脚92は、本体91の底部に取り付けられている。本体91は、正面の下部に、蹴込部93を有する。蹴込部93には、配管の接続口が設けられる。

【0012】

梱包構造1は、貯湯ユニット90を載せる台2と、外装部材3とを備える。外装部材3は、貯湯ユニット90の周囲を囲む側面部と、貯湯ユニット90の上面を覆う上面部4とを有する。外装部材3の側面部は、第一側面部5、第二側面部6、第三側面部7、及び第四側面部8を含む。第一側面部5は、貯湯ユニット90の正面を覆う。第二側面部6は、貯湯ユニット90の右側面を覆う。第三側面部7は、貯湯ユニット90の背面を覆う。第四側面部8は、貯湯ユニット90の左側面を覆う。

【0013】

外装部材3は、左前緩衝部9、右前緩衝部10、左側面緩衝部11、右側面緩衝部12

10

20

30

40

50

、左背面緩衝部 13、右背面緩衝部 14、左上面緩衝部 15、及び右上面緩衝部 16 を有する。これらの緩衝部が貯湯ユニット 90 に接触することで、運搬、荷扱いの際に、貯湯ユニット 90 が梱包構造 1 を介して受ける衝撃を確実に軽減できる。左前緩衝部 9、右前緩衝部 10、左側面緩衝部 11、右側面緩衝部 12、左背面緩衝部 13、及び右背面緩衝部 14 は、それぞれ、外装部材 3 の側面部に形成された切込みを内側に折った部分で構成される。左前緩衝部 9 及び右前緩衝部 10 は第一側面部 5 に形成され、左側面緩衝部 11 は第四側面部 8 に形成され、右側面緩衝部 12 は第二側面部 6 に形成され、左背面緩衝部 13 及び右背面緩衝部 14 は第三側面部 7 に形成される。左上面緩衝部 15 は、上面部 4 の左側への延長部分を、複数の折り曲げ部で折り曲げて巻き込むことで筒状（四角柱状）に形成される。右上面緩衝部 16 は、上面部 4 の右側への延長部分を、複数の折り曲げ部で折り曲げて巻き込むことで筒状（四角柱状）に形成される。

10

【0014】

上面部 4 は、第三側面部 7 の上端に、折り曲げ部 17 を介して接続する。折り曲げ部 17 を曲げたり伸ばしたりすることで、上面部 4 を開閉できる。梱包完了状態のとき、左上面緩衝部 15 及び右上面緩衝部 16 は、貯湯ユニット 90 の上面に当接する。外装部材 3 は、第四側面部 8 の上端に折り曲げ部を介して接続する左差込片 18 と、第二側面部 6 の上端に折り曲げ部を介して接続する右差込片 19 とを有する。

【0015】

図 3 は、本実施の形態 1 の梱包構造 1 が備える外装部材 3 の展開図である。本実施の形態 1 における外装部材 3 は、切断部及び折り曲げ部を有する 1 枚の板状の部材で構成される。図 3 中、切断部を実線で示し、折り曲げ部を破線で示す。外装部材 3 の側面部（第一側面部 5、第二側面部 6、第三側面部 7、及び第四側面部 8）の両端は、第一側面部 5 の端部 5a と、第四側面部 8 の端部 8a とで構成される。第一側面部 5 の端部 5a は、第一側面部 5 の他の部分との間に折り曲げ部 20 を介して接続する。

20

【0016】

第二側面部 6 は、第一側面部 5 との間に折り曲げ部 21 を介して接続する。第二側面部 6 と第三側面部 7 との間には、複数の折り曲げ部 22、23、24、25、26、27、28 がこの順で平行に設けられる。これらの折り曲げ部 22、23、24、25、26、27、28 により、後述する柱構造 29 が形成される。第四側面部 8 は、第三側面部 7 との間に折り曲げ部 30 を介して接続する。

30

【0017】

左前緩衝部 9 は、段 9a を有する形状に切断される。右前緩衝部 10 は、段 10a を有する形状に切断される。梱包時に、左前緩衝部 9、右前緩衝部 10、左側面緩衝部 11、右側面緩衝部 12、左背面緩衝部 13、及び右背面緩衝部 14 は、それぞれの折り曲げ部 9b、10b、11a、12a、13a、14a で内側へ折り曲げられる。梱包完了状態では、以下ようになる。左前緩衝部 9 の段 9a より上の部分、及び右前緩衝部 10 の段 10a より上の部分は、貯湯ユニット 90 の蹴込部 93 に接触する。左前緩衝部 9 の段 9a より下の部分、及び右前緩衝部 10 の段 10a より下の部分は、貯湯ユニット 90 の本体 91 と台 2 との間に挿入する。左側面緩衝部 11、右側面緩衝部 12、左背面緩衝部 13、及び右背面緩衝部 14 は、貯湯ユニット 90 の本体 91 と台 2 との間に挿入する。

40

【0018】

左上面緩衝部 15 には、左差込片 18 を挿入可能な左差込口 31 が形成される。右上面緩衝部 16 には、右差込片 19 を挿入可能な右差込口 32 が形成される。

【0019】

図 4 は、本実施の形態 1 の梱包構造 1 が備える台 2 の平面図である。図 4 に示すように、台 2 の平面形状は、おおむね長方形形状である。台 2 は、外装部材 3 の柱構造 29 を固定する柱固定部 33 と、外装部材 3 の側面部の両端である端部 5a、8a を固定する両端固定部 34 とを有する。柱固定部 33 と両端固定部 34 とは、台 2 の対角の位置にある。柱固定部 33 は、柱構造 29 の下部が嵌合する溝 33a、33b を有する。両端固定部 34 は、第一側面部 5 の端部 5a の下部が嵌合する溝 34a と、第四側面部 8 の端部 8a の下

50

部が嵌合する溝 3 4 b とを有する。溝 3 3 a, 3 3 b, 3 4 a, 3 4 b は、溝の幅が水平方向の奥に向かって漸減するテーパ状（V 字状）になっている。

【0020】

台 2 は、さらに、第二側面部 6 の下部が挿入する溝 3 5 と、第三側面部 7 の下部が挿入する溝 3 6 と、第四側面部 8 の下部が挿入する溝 3 7 とを有する。

【0021】

図 5 は、本実施の形態 1 の梱包構造 1（梱包完了状態）を水平面で切断した断面図である。図 5 の断面の位置は、左前緩衝部 9 及び右前緩衝部 10 より上で、左上面緩衝部 15 及び右上面緩衝部 16 より下の位置である。図 5 では、貯湯ユニット 90 の本体 91 の内蔵物の図示を省略し、本体 91 の断面全体に斜線を付す。図 5 では、便宜上、外装部材 3 の断面の厚さを無視し、1 本の線で表す。

10

【0022】

以下の説明では、折り曲げ部 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28 の折り曲げ方向について、外装部材 3 の外側に凸になるように折り曲げることを山折りと称し、外装部材 3 の内側に凸になるように折り曲げることを谷折りと称する。折り曲げ部 22 を 180° 山折りし、折り曲げ部 23 を 90° 谷折りし、折り曲げ部 24 を 90° 谷折りし、折り曲げ部 25 を 90° 山折りし、折り曲げ部 26 を 90° 谷折りし、折り曲げ部 27 を 90° 谷折りし、折り曲げ部 28 を 180° 山折りすることで、柱構造 29 が形成される。このような構成により、柱構造 29 の断面形状は、複数の L 字型を組み合わせた形状になる。柱構造 29 は、第二側面部 6 と第三側面部 7 との間の角部に形成される。この柱構造 29 を設けることで、外装部材 3 の強度を十分に高くできる。

20

【0023】

柱構造 29 の下部が柱固定部 33 に固定され、第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a が両端固定部 34 に固定されることで、外装部材 3 が台 2 に固定される。折り曲げ部 22 が 180° 折り曲げられた部分が溝 33 a に嵌合し、折り曲げ部 28 が 180° 折り曲げられた部分が溝 33 b に嵌合することで、柱構造 29 を柱固定部 33 に確実に固定できる。第一側面部 5 の端部 5 a は、第一側面部 5 の他の部分に対し 90° 折り曲げられた状態で、溝 34 a に嵌合する。第四側面部 8 の端部 8 a は、溝 34 b に嵌合する。第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a が溝 34 a, 34 b に嵌合することで、第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a を両端固定部 34 に確実に固定できる。

30

【0024】

本実施の形態 1 では、上記の構成により、接着剤、粘着テープ、クリップなどの他の固定部材を用いることなく、柱構造 29 を柱固定部 33 に固定できる。また、柱構造 29 と柱固定部 33 との着脱が可能である。同様に、第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a と両端固定部 34 との固定も、接着剤、粘着テープ、クリップなどの他の固定部材を用いることなく固定でき、第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a と両端固定部 34 との着脱が可能である。

【0025】

本実施の形態 1 では、溝 33 a, 33 b がテーパ状（V 字状）をなすことで、外装部材 3 の柱構造 29 を溝 33 a, 33 b に挿入する際にテーパ状の部分での外装部材 3 の厚み以下の部分で圧縮により摩擦が増大するので柱構造 29 と柱固定部 33 とをより強固に固定でき、特に、着脱を繰り返した後も柱構造 29 と柱固定部 33 とを強固に固定できる。同様に、溝 34 a, 34 b がテーパ状（V 字状）をなすことで、第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a と両端固定部 34 とをより強固に固定でき、特に、着脱を繰り返した後も第一側面部 5 の端部 5 a 及び第四側面部 8 の端部 8 a と両端固定部 34 とを強固に固定できる。

40

【0026】

本実施の形態 1 では、第二側面部 6 の下部が挿入する溝 3 5 と、第三側面部 7 の下部が挿入する溝 3 6 と、第四側面部 8 の下部が挿入する溝 3 7 とを台 2 に設けたことで、外装

50

部材 3 の側面部を台 2 の適正な位置により確実に固定できる。柱構造 29 の折り曲げ部 25 を 90° 山折りした角部は、貯湯ユニット 90 の本体 91 の角部に噛み合う。このように、柱構造 29 が貯湯ユニット 90 の本体 91 の角部に噛み合う角部を有することで、外装部材 3 を貯湯ユニット 90 に対し適正な位置に確実に保持できる。

【0027】

図 6 は、本実施の形態 1 の梱包構造 1（梱包完了状態）の上部を鉛直平面で切断した断面図である。図 6 の断面の位置は、左差込片 18、右差込片 19、左差込口 31、及び右差込口 32 を通る位置である。図 6 では、貯湯ユニット 90 の本体 91 の内蔵物の図示を省略し、本体 91 の断面に斜線を付す。図 6 では、便宜上、外装部材 3 の断面の厚さを無視し、1 本の線で表す。

10

【0028】

図 6 に示すように、左差込片 18 を第四側面部 8 に対して折り曲げることで、左上面緩衝部 15 に設けられた左差込口 31 に挿入できる。右差込片 19 を第二側面部 6 に対して折り曲げることで、右上面緩衝部 16 に設けられた右差込口 32 に挿入できる。これらにより、上面部 4 を外装部材 3 の側面部に固定することができる。左差込口 31 は、筒状をなして一周以上する左上面緩衝部 15 が重なり合う部分に形成されている。このため、左差込口 31 に左差込片 18 が挿入することで左上面緩衝部 15 の筒体の緩みを防止できる。同様に、右差込口 32 は、筒状をなして一周以上する右上面緩衝部 16 が重なり合う部分に形成されている。このため、右差込口 32 に右差込片 19 が挿入することで右上面緩衝部 16 の筒状の緩みを防止できる。

20

【0029】

次に、本実施の形態 1 の梱包構造 1 で梱包する手順の一例について、順を追って説明する。

（１）台 2 の上に貯湯ユニット 90 を固定する。

（２）外装部材 3 の折り曲げ部 22、23、24、25、26、27、28 を折り曲げ、柱構造 29 を形成する。

（３）台 2 に設けられた柱固定部 33 の溝 33a、33b に柱構造 29 を差し込むことで、柱構造 29 を台 2 に固定する。

（４）外装部材 3 の折り曲げ部 21、30 を折り曲げることで、貯湯ユニット 90 の周囲を囲うように外装部材 3 の側面部を折り曲げる。

30

（５）第一側面部 5 の端部 5a を折り曲げ、両端固定部 34 の溝 34a に差し込む。第四側面部 8 の端部 8a を両端固定部 34 の溝 34b に差し込む。これらのことで、第一側面部 5 の端部 5a 及び第四側面部 8 の端部 8a を台 2 に固定する。

（６）左前緩衝部 9、右前緩衝部 10、左側面緩衝部 11、右側面緩衝部 12、左背面緩衝部 13、及び右背面緩衝部 14 を、それぞれ、貯湯ユニット 90 に向けて折り曲げ、貯湯ユニット 90 に接触させて固定する。

（７）左上面緩衝部 15 及び右上面緩衝部 16 をそれぞれ内側へ折り込み、筒体を形成する。

（８）折り曲げ部 17 を折り曲げることで上面部 4 を閉じ、貯湯ユニット 90 の上面を覆う。左上面緩衝部 15 及び右上面緩衝部 16 を貯湯ユニット 90 の上面に接触させる。

40

（９）左差込片 18 を左差込口 31 に挿入し、右差込片 19 を右差込口 32 に挿入することで、上面部 4 を外装部材 3 の側面部に固定する。

【0030】

上記のようにして梱包が完了した状態では、左前緩衝部 9 の段 9a より下の部分、右前緩衝部 10 の段 10a より下の部分、左側面緩衝部 11、右側面緩衝部 12、左背面緩衝部 13、及び右背面緩衝部 14 が、それぞれ、貯湯ユニット 90 の本体 91 と台 2 との間に挿入する。これらの緩衝部が貯湯ユニット 90 の本体 91 の下部に噛み合うことで、外装部材 3 が貯湯ユニット 90 の上方向へ外れることを確実に防止できる。なお、本実施の形態 1 の梱包構造 1 を開梱する手順は、上述した梱包する手順の逆の手順となる。

【0031】

50

次に、本実施の形態１の梱包構造１で梱包された製品である貯湯ユニット９０の運搬、荷扱い後に、貯湯ユニット９０の表面に変形あるいは損傷が無いかどうかを確認する手順の一例について、順を追って説明する。

(１) 左差込片１８を左差込口３１から抜き取り、右差込片１９を右差込口３２から抜き取ることで、上面部４と外装部材３の側面部と固定を解除する。

(２) 左前緩衝部９、右前緩衝部１０、左側面緩衝部１１、右側面緩衝部１２、左背面緩衝部１３、及び右背面緩衝部１４のうち必要部分の折り曲げを元に戻す。

(３) 第一側面部５の端部５ａを両端固定部３４の溝３４ａから抜き、第四側面部８の端部８ａを両端固定部３４の溝３４ｂから抜くことで、第一側面部５の端部５ａ及び第四側面部８の端部８ａと台２との固定を解除する。

(４) 柱構造２９を支点として、外装部材３の側面部（第一側面部５、第二側面部６、第三側面部７、及び第四側面部８）を必要な範囲で開くことができる。これにより、貯湯ユニット９０の表面、特に四方の側面（正面、左側面、右側面、及び背面）に変形あるいは損傷が無いかどうかを目視で確認できる。

(５) 確認を終えた後は、上記の逆の手順により、再度梱包状態に戻すことができる。

【００３２】

以上説明した本実施の形態１の梱包構造１によれば、梱包及び開梱を容易に繰り返すことができる。このため、製品（被梱包体）の運搬、荷扱い後に、製品の表面に変形・損傷が無いかどうかを確認するために一時的に開梱する作業を容易に行える。特に、外装部材３の側面部の両端（第一側面部５の端部５ａ及び第四側面部８の端部８ａ）の固定を解除し、外装部材３の側面部を必要な範囲で開くことができる。このため、貯湯ユニット９０のような背の高い製品の場合でも、製品の側面に変形あるいは損傷が無いかどうかを容易に確認できる。また、外装部材３の側面部を開く際に、柱構造２９が支点となるので、外装部材３の側面部を安定して開くことができるとともに、外装部材３の側面部を固定位置に戻す作業も容易にできる。特に、本実施の形態１では、柱固定部３３と両端固定部３４とを対角の位置に配置したことで、外装部材３の側面部を開いた際に柱構造２９が外装部材３の側面部をより安定して支持できる。

【００３３】

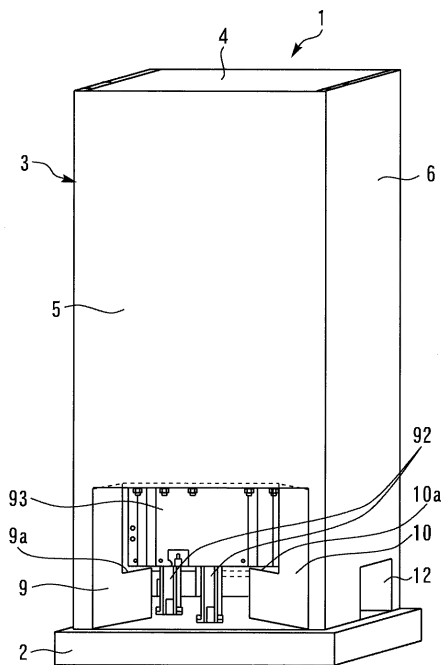
また、本実施の形態１の梱包構造１は、部品点数が少ないので、梱包、開梱、梱包部品の廃却作業が容易になる。特に、本実施の形態１では、上面部４が外装部材３に一体に設けられていることで、部品点数を特に少なくできる。

【符号の説明】

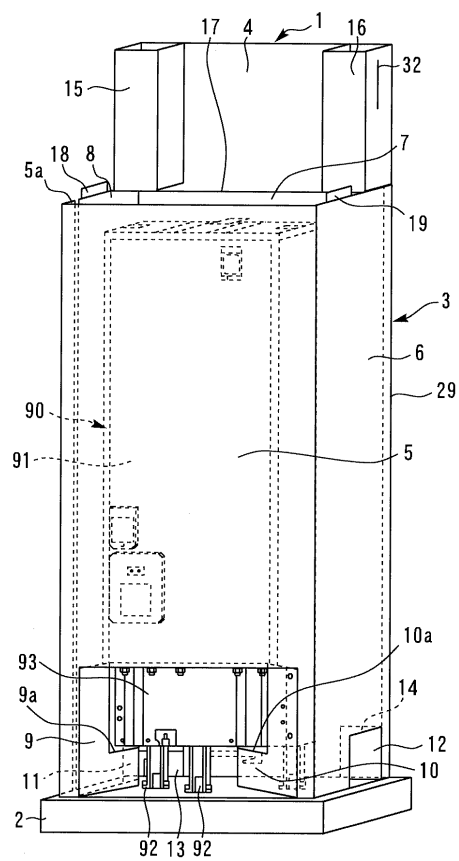
【００３４】

１ 梱包構造、２ 台、３ 外装部材、４ 上面部、５ 第一側面部、５ａ 端部、６ 第二側面部、７ 第三側面部、８ 第四側面部、８ａ 端部、９ 左前緩衝部、９ａ 段、９ｂ 折り曲げ部、１０ 右前緩衝部、１０ａ 段、１０ｂ 折り曲げ部、１１ 左側面緩衝部、１１ａ 折り曲げ部、１２ 右側面緩衝部、１２ａ 折り曲げ部、１３ 左背面緩衝部、１３ａ 折り曲げ部、１４ 右背面緩衝部、１４ａ 折り曲げ部、１５ 左上面緩衝部、１５ａ 折り曲げ部、１６ 右上面緩衝部、１６ａ、１７ 折り曲げ部、１８ 左差込片、１９ 右差込片、２０、２１、２２、２３、２４、２５、２６、２７、２８ 折り曲げ部、２９ 柱構造、３０ 折り曲げ部、３１ 左差込口、３２ 右差込口、３３ 柱固定部、３３ａ、３３ｂ 溝、３４ 両端固定部、３４ａ、３４ｂ、３５、３６、３７ 溝、９０ 貯湯ユニット、９１ 本体、９２ 脚、９３ 蹴込部

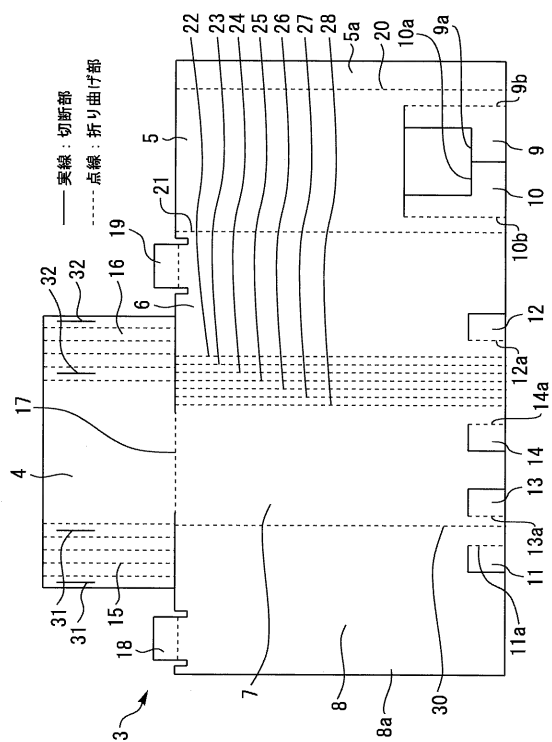
【図 1】



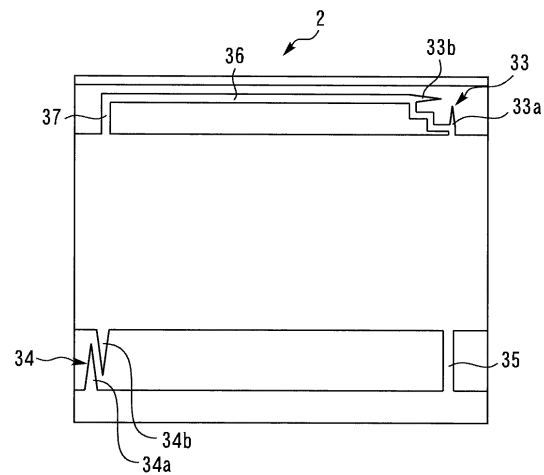
【図 2】



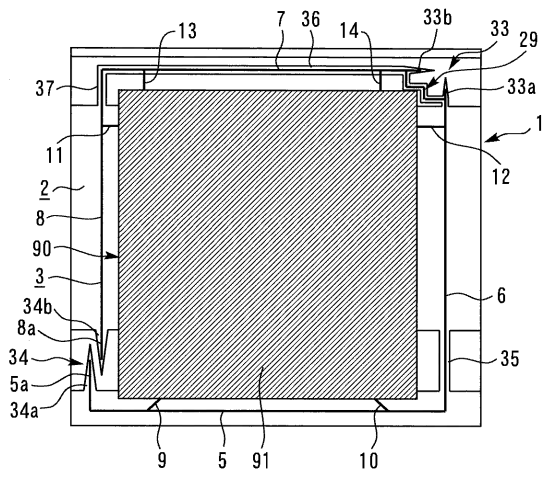
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

